

科目責任者 庄司 優 (薬効学研究室)

■教育目的

臨床検査学の1分野としての臨床生理学の位置づけであるが、診断や病態の把握をするためにも必須の知識である。臨床検査技師をめざす者はもちろん、そうでなくとも、履修しておくことで病態生理の理解や症例解析に役立つ知識が得られる。すでに3年の臨床分析学で総論的なことは学んでいるので、この講座では実際の症例の検査データを通じて具体的な応用とその解釈に重点をおく。つまり、実習や臨床で役立つ実践力への橋渡しを目標としている。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、YD-⑤】

■学習到達目標

1. 検査手技と結果の解釈、患者ケアへの適応ができる。
2. 各検査法の適応疾患と限界（問題点）が説明できる。
3. 臨床検査技師国家試験の生体機能検査（臨床生理学）の分野の問題に解答できる。

■準備学習（予習・復習）

予習：項目により事前に資料が学内ネットに掲載されるので閲覧する（20分）

復習：重要事項をノートにまとめ、関連した国家試験の問題にチャレンジする（30分）

■授業内容

検査法の説明を受けた後、実際の検査の結果を評価する演習も行う。ビデオや写真などによって視覚的にも理解できるようにする。実際の国家試験の練習問題も行う

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	臨床生理学総論、循環器 1	生理検査とは、循環系の解剖、生理、血圧	C8(1)-5, C14(1)-1-1, C14(1)-2-11
2	循環器 2	心電図（虚血性心疾患）負荷試験	C14(1)-2-4
3	循環器 3	心電図演習	C14(1)-2-4, C14(2)-2
4	循環器 4	心エコー	C14(1)-2-4, C14(2)-2, C2(3)-2-7
5	循環器 5	心音図、脈波、末梢循環 (ABI)	C14(1)-2-4, C14(2)-2
6	神経系 1	神経系の解剖生理	C8(1)-2
7	神経系 2	脳 CT、MRI、PET、眼底検査	C2(3)-2-7, C2(3)-2-8
8	神経系 3	筋電図、神経伝導速度	C14(3)-6
9	神経系 4	脳波	C14(3)-6
10	感覚器	平衡機能検査、オージオメーター、眼底写真、視野測定、眼圧計	C14(4)-2, C14(4)-4
11	呼吸器 1	呼吸器系の解剖と生理	C8(1)-6-1
12	呼吸器 2	血液ガス分析と酸塩基平衡、基礎代謝測定	C14(1)-2-10, C14(1)-2-3
13	呼吸器 3	呼吸機能検査	C14(1)-1-1, C14(1)-2-3
14	消化器 1	消化管の解剖生理、臨床検査	C8(1)-7-1, C14(1)-2-1, C14(2)-4
15	消化器 2	肝胆膵の解剖生理、臨床検査	C8(1)-7-2, C14(1)-2-1, C14(2)-4

■授業分担者

庄司 優 (No.1~5)、石橋 賢一 (No.6~10)、越前 宏俊 (No.11~15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

出席 10 %、期末試験 90 % で評価する。

■ 単位認定方法

上記の成績評価で基準点を超えたものに単位を認める。

■ 教科書

必要に応じてプリントを配布

■ 参考書

『臨床検査法提要第 33 版』金井正光 監 （金原出版）

■ その他

臨床検査技師の国家試験を受ける希望者はあらかじめ申し出ること